伯剌西爾時報

發行所 伯西剌爾時報社
聖市ファグンデス街一九六
電話七一－四六七〇
社長 黑石清作
購讀料 一ケ年 六十釺
半ケ年 三十釺

珈琲	サントス四級 十キロ	二四、〇〇〇
	リオ七級	一九、五〇〇
爲替	對日	四、六七〇
	對[illegible]	五、六七〇
	對米	一九、七七〇
	對英	八〇、〇五〇

松岡外相の訪歐意義甚大

武士道日本は盟約確守

いざ大西洋の大決戰へ

帝都各紙社説

【東京廿九日同盟】報知社説　三國樞軸の當事者の間に、直接膝を交へての懇談が同盟陣營の強化に與へる効力は絶大なものなりと言へよう、のみならず、外相がクレムリン宮殿に於てソ聯の最高權力者たるスターリン氏と、一時間余に亘つて親しく懇談を遂げた事は、日ソ關係の上にも、又世界新秩序建設の爲めにも我等の欣快に堪えない處である、會談の席上、モロトフ首相兼外相及び建川大使も列席して和氣靄々の裡に懇談を交した事は、近く日ソ關係好轉の上に何等かの具體的な事實が齎らされん事を豫想せしめる、と論じ、

獨逸.日本を 絶對信頼

都市社説は、盟邦の歡迎と題し、松岡外相はドイツ官民の大歡迎裡に無事ベルリンに到着した、此大歡迎こそはドイツ國民の盟邦日本に對する友情と熱誠の表れである、時恰もユーゴ一國が新に三國同盟に加盟し樞軸の勢力に更に支柱力を加へたる時盟邦日本の外相を迎へたドイツ國民の歡びは一入であらう、又、モスクワに於けるスターリン書記長の會見も異例の事にして單に儀禮的とするもその効果は頗る大なるものがあり、松岡外相のベルリンに於けるドイツ指導者との交驩は、敢てそれは次の大戰への堅い盟約さも感ぜられる、直ちに展開するであらう大西洋上の一大決戰給巻を前にして、盟邦首腦と交驩を重ねつゝある松岡外相の感銘も一入と想像されるのであるが獨伊樞軸國をして後顧の憂ひなく總意を擧げて大西洋戰に赴かしむる帝國外交の信望を、その當局者たる松岡外相の相貌に見出し得る事である、惟ふにヒットラー總統以下ナチスドイツ首腦部は、松岡外相を通じて三國同盟の盟約を堅持する日本の指導精神を如實に、適確に看取する事を得るであらう、日本の信念は其一億ゝ生命を以つて守り貫ぬくものである、自國の利害打算に依り自らを救ふ爲めには止むを得ずとして、一方的に盟約を破棄するは日本武士道の斷じて許さゞる處である、特に盟邦ドイツが日本武士道の眞諦を覺り、頑敵打倒の効を速かに收めん事を要望して已まぬものである、と論じ、ベルリン特派員との國際電話問答を掲げてゐる

[illegible]

◈英國の策動に躍り、新政府を樹立して樞軸參加の盟約を破棄せんとするユーゴースラビヤの態度に獨逸は毅然として共盟約履行を要求してゐる先に獨逸が突きつけた最後通牒期限三十六時間に對し新政府の外相ニンチッキは、ユーゴーが未だ三國同盟加入を批准拒否した譯でないから、最後通牒回答期限を七十二時間に延期してくれと泣き込んで來た、獨逸ではヒットラー以下最高首腦部協議の結果、武士の情とばかり七十二時間猶豫を許可したと外電が報じた　ユーゴー國内殊にベルグラードでは樞軸派、反樞軸派に別れた上、大衆のデマが亂れ飛び鼎の湧くが如き騷動を演じてゐる、この嵐のさ中に擁立された幼帝ペドロ二世の御立場こそ實に悲劇の御主人そのものであつて御同情の至りであると云へる。　獨逸の決意既に鋼鐵より堅く、尙この上、英側の策動に乘ぜられ其歸趨を決せず躊躇逡巡して七十二時間を經過せんか、電光石火獨軍の鋭鋒は斷乎ユーゴーを衝き武力制壓が敢行せらるゝであらう。

◈松岡外相がヒットラー以下獨逸首腦部との胸襟開いた會談により、獨は日本武士道精神を再認識して血盟遵守に牢固信念を堅持する日本の態度に絶大の信頼を抱き、松岡外相又民主國制壓に獨が不動の決意と周到萬全を期した用意の詳細を知り、深く感銘したるものゝ如くである、斯て東西の兩雄邦愈々堅く信じ固く手を握つて來るべき對民主國の大決戰に對處すへき精神的結合は成つたのである。外相は歸途再びモスクワへ立寄り最低限度日ソ不可侵條約を成立せしめるであらうし、其上、日ソ友好に關する何等かの具體的了解乃至取決めも行ふであらう、松岡外相訪歐の意義極めて甚大、歸京後の日獨伊の動きには定めし劃期的なものが展開されるであらう

ソ聯[illegible]む歐洲現狀と
獨逸の準備精密檢討

朝日社説「松岡外相と日獨會談」

【東京廿九日同盟】廿八日の朝日の社説は、松岡外相と日獨會談と題し、先づ松岡外相は無事ベルリン到着後、ヒットラー總統と會談を重ねるが吾人の期待はドイツ政府首腦者等の意向並に準備に對して精密なる檢討を遂げ、それに關する認識を確かにすると同時に、ソ聯を含む歐洲の現狀及び間近に迫るべき情勢並にその後の見透し等に關して苟しくも適確の判斷を誤らないと云ふ事に歸するのである同外相が入獨に當り、記者に語つた處の要點は、一、國家を運命とする同盟を結んだ以上、相手國首腦者の顔知り合ひ、話し合ふ事が國家に對する義務と考へる

二、例へば對米問題に立入つた話しが出た場合は勿論ドイツ側の意向を虚心坦懐に聽き度い、自分の意見も率直に述べる事もあるかも知れない

二、歐洲戰爭はその和平を急ぐ時期ではないと云ふのであるが、時機は尙早であるにしてもその考へが妥當である以上、それに就て各方面と意見交換を行ふは決して無駄ではないであらうと論じ、更に十一段に亘り特派員との間に交した松岡外相のベルリン入りの模樣に關する國際電話を掲げてゐる

幾千代契らせ給ふ

三笠宮殿下
妃宮芽出度く御決定

高木子爵次女百合子姫

【東京廿九日同盟】陸軍大尉大勳位三笠宮崇仁親王殿下が幾千代契らせ給ふ妃宮の御詮衡は松平宮相、武者小路宗秩寮總裁が愼重奉仕申上てたが、此の程舊河内國丹南領主貴族院議員子爵高木正得次女百合子姫と芽出度く御婚約成らせ、畏き邊りでは廿九日正式に勅許あらせられた、三笠宮殿下には今年御廿七歳にわたらせられ、百合子姫は十九歳で去る廿七日優等の成績を以て女子學習院本科を卒業されたのであるが、晴の御婚儀は今秋の佳き日をトして宮中賢所大前に於ていと嚴かに擧げさせられる御豫定と承はる、畏くも殿下には時局に鑑みさせられ、御婚儀、諸御儀等總て質素簡單にせよとの思召しを賜はつた由、又御婚儀後も御殿御造營はあらせられず、假御殿青山東御殿に當分御住ひ遊されると承はる

簡素剛健

尊き御身で一汁一菜
御軍服も修理遊さる

三笠宮殿下の御日常

【東京廿九日同盟】御慶びの三笠宮殿下には近來愈々御健康で居らせられ、一昨昭和十四年十二月一般學生と御同樣陸軍大學校に御入學以來殆ど御休みの暇もあらせられず高等戰術の御研鑽を積ませられてゐる、昨年十一月で第一學年の課程を御修了、今は第二學年の略中途に達せられ、御日常御多端にわたらせられるが、始終御精勵遊ばし御研鑽を續けさせられ、御殿に持ち歸りの御作業なども深更までかゝらせられるとの事があるが、御健康にも何の御障りもあらせられないと承はる、殿下には昭和十一年少尉に御任官の爲め翌十二年事變勃發以來騎兵十五聯隊御勤務として皇軍の訓練に日夜御激務を續けさせられ、陸大に御入學後も事局下皇軍に御重責を負はせられるが、御日常は午前五時御起床御日拜の御後たわし摩擦、ラヂオ體操、新刀の素振りなど御鍛鍊を遊ばされ御通學にも御苑づたひに御徒歩でならせられる、學内でも御行動は全く一般學生と御同樣で時々には野外に現地戰術その他にも御參加遊される、御仁慈深き殿下には騎兵聯隊中隊長として御勤務中御手づから津田沼の假御殿に部下將士を召され、膝を交への御晩餐會を賜ひつゝ部下兵の心情や、兵の家族の模樣など御下問もあつて御熱心に聞し召され、困つた兵や家族には特に御面倒を賜はつた由で、兵に面會の家族まで拜謁を賜ひ悉に御言葉を賜つて御激勵遊したと承はる、御研究心深くおはし御乘馬にも御自身の御注意と同時に日々の御愛馬の生理狀態などにまで細やかに御留意遊され、又野營演習などの場合など實地に御研究遊し、根據ある御自信を以て臨ませられた事も再々であつたと承はる、御生活は一汁一菜で御軍服も幾度か御修理遊され、自動車も非公式の際にはダットサンを御使用の事もあらせられるなど、萬事質實剛健を旨とする御日常は下民の範とも申上ぐべく、側近は恐く感激申上げてる

日米戰爭に 斷乎決意示し

松岡外相・伯林で記者團に語る

日本の國力極めて强靭
過少評價は最も危險

【伯林二十八日同盟】總統官邸の午餐を終つた松岡外相は、一旦ベルリンの宿舍に歸還し、小憩の後、午後五時、リッペントロップ外相の案内で外國新聞會館に赴き日獨伊三國及び三國同盟關係及びソ聯、スペインなどの友好國記者團を引見しインタービューを行つた、獨側からもリッペントロップ外相、デイトリッヒ新聞部長、デルンベルグ儀典局長、シュミット情報部長、オットー大使その外、外務宣傳兩省の關係者殆ど全員立會ひ頗る大懸りなものだ、松岡外相は國際記者團に一々握手を與へた上、赤々と燃えた英國風の煖爐を圍んで懇談が始まる、記者團の質問はなかく鋭いが、今までの外國使臣の消極的な答辯振りと違つて思ひ切つた事をズバく云つて松岡外相の答辯は却つて記者團の方で氣を呑まれた恰好だ、日米關係の將來、支那事變解決の見透しなど、大體興味の中心は極つてゐるが、松岡外相は米國民の理想をよく知つてゐるから戰爭になるとは思はない、然し米國がかゝつて來れば日本はいつでも斷乎としてこれに應酬する用意があるし、これから五年でも何年でも戰爭を續ける力がある、日本の力を過少評價するのは危險だ、日獨の提携は世界歷史始まつて以來最大の同盟であり、且つ最大の効果を收めるものなることは疑問の余地がない、と斷言し、記者團に非常な力强い印象と好感を與へた

駐ユ獨公使急遽伯林へ歸る

【紐育廿九日發】（UP電）ベルグラード來電によれば、同市駐在獨公使ダイクトルヘーレン氏はユーゴー新首相と會談後、急電に接し、伯林向け出發した

翼賛會職員總辭職

總務以下の辭表纏め
有馬總長・首相へ提出

【東京廿九日同盟】有馬前翼賛會事務總長は、廿九日午後一時荻窪の私邸に、近衛首相を訪問、かねて傳達方を一任されてゐた常任總務及び局部長、副部長の辭表を正式に提出した、尙一般職員の辭表は松前總務部長より卅一日、近衛首相に正式に提出される事になつてゐる

英米の支援頼み
土・希・ユ三國同盟締結か

【アンカラ二十八日發】（UP電）アンカラ、アテネ及びベルグラードの三市に於ては土・希・ユ三國同盟の締結を急いでゐるが、右三國同盟成立の上は、英米兩國の支援を得て獨逸のバルカン制覇を覆へさんとするものである

ベルグラードの秩序亂る
市民昂奮隨處で亂鬪

【伯林二十九日同盟】（TO電）ベルグラード駐在獨逸公使最後の報告によれば、ペドロ第二世即位式に際し文武高官が宮殿へ出入するを目撃しつゝ、昂奮せる市民達は口々に喚き立てゝ亂鬪が隨處に行はれてるが、獨逸人に對しては特に危險なる言動を弄して不安極まりないので市内在住獨人は公使館へ收容、地方在住獨人は續々本國へ引揚げ中である

ユーゴー首相ら放免さる
パウロ攝政はギリシャへ

【ベルグラード二十八日發】（UP電）二十七日夜十一時五十分パウロ・ユーゴー攝政はギリシャへ出發したが、之と前後してツベコヴイッチ前首相及びマルコヴイッチ外相も監禁を解かれて放免、自由の身となつた

比島に總動員令下る
十五萬の兵大演習

【マニラ二十九日發】（TO電）フイリッピン政府は總動員令を發し、十五萬の兵は目下特別大演習中である、斯の如き大演習は島氏の輿論に鑑み、約二ケ年中止されてゐたものであるが、世界情勢險惡化のため今回强行されたものである

獨ユ双方
交通通信を斷絶

【ブダペスト二十九日發】（UP急電）獨政府はダニューブ河附近ユーゴー國境を封鎖、交通も遮斷し同時にユーゴー側もベルグラードと獨伊其他の樞軸側各國との通信を斷絶した

泰使節モスクワへ

【滿洲里廿八日同盟】泰、ソ聯通商協定締結に當つた泰國モトリア特派使節は、廿七日滿洲里着直ちにハルビンに向つた、尙同使節は新京で梅津軍司令官、京城で兩總督と會見後、モスクワに赴く豫定

ユーゴー新皇帝
ペドロ第二世即位式行はる

【ベルグラード二十八日發】（ロイター電）本日當市宮殿内に於てユーゴー新政府首相シモンヴィチ將軍以下閣僚其他參列の上、ペドロ第二世陛下の即位式が行はれた

寫眞　中央に立たせられるは ユーゴースラビヤ新皇帝 ペドロ第二世陛下

◆◆◆―◆

駐ソユーゴー大使
無任所大臣就任か

【ベルグラード廿八日發】（ハーバス電）ユーゴー新首相シモンヴィチ將軍はモスクワ駐在公使に對し至急歸國を命じたが既に歸國の途に就て居り、無任所大臣になつてゐる

日本に謝意の爲め
常大臣入京の豫定

【新京廿九日同盟】滿洲國治安部大臣常紹氏は、滿洲國軍に對して寄せられた日本の援助指導に謝意を表する爲め、藤村高級顧問以下隨員を帶同し、卅日夜入京の豫定である

二人草三郎

（第二部新上映）

小塔雄

繪 小川倚馥

（七十二）

千兩箱（十）

「くッロ惜しい！お八重の時だつて、いゝ加減妾はバカにされたのを、ついお前さんのその口前に欺されて丸めこまれてしまつたが――今度こそ、誰が、誰がその手を喰ふものかッ！」

と、血相變へて白藏に飛びかゝつてゆくお辰。

「こ、こッ、何をする――何をよッ」

「何をするとは――えゝッ、口惜しいつたら、妾！こんど度こそお八重の時の埋合せに千兩箱が手に這入つたら妾を連れて逃ると、あ、あれ程固い約束をして置きながら、又そんな見え透いた手で、妾を欺さうなんて――」

「ま、待ちなよ、えゝッ待ちやがれッ――嘘も隱しもしねえや。その千兩箱は、昨夜途中で消えて無くなつて、俺らは蒲燒屋の前の素通りで、ほんの匂ひを嗅いだだけだ、それでむしやくしやと無性に腹の立つて仕方のねえところへ何て眞似をしやがる――えゝッ放しやがれ」

と邪險につゝ放ねられて、疊の上へ倒れたお辰、滿更嘘でもないらしい白藏の險幕に亂れた前を搔き合せながら―

「ほ、ほとうかえ？お前さん、それは……」

「本當にも何んにもまア〳〵、相[illegible]

呆氣にと[illegible]

箱を中に[illegible]

睇つて[illegible]

う聲を[illegible]

て入つ[illegible]

な、[illegible]

「全く[illegible]

えが、[illegible]

は[illegible]

ん[illegible]

「[illegible]

るとか――俺らア、あ、あいつは苦手なんだが、どうして又急にさう早くばれたんでせうねえ――俺らにや、一層合點がゆきやせん――」

「それがさ、何か、袴とやら――」

「なに、袴？」

白藏が鸚鵡返しにさう云つて、はつとしたやうに、

「あッ傳次！お前、あんなところへ袴を引ッ掛けて置いたのか？」

「あッ、あッ、あれい――こいつは大失策だつた……昨夜からの腐りつゞけで、片附けるのをとんと度忘れてゐたよ」

「なんてどぢな眞似を――あ、それにこんなところへ赤い印が……」

「おや、そ、それがお前さんの手がかりになつたんですよ」

とお辰も眼を瞠つた。

「飛んでもねえどぢを踏み餞けてしまつたもんだなあ……俺らアあの千兩箱を資本に、大仕事を目論でゐたのによ、仕、仕方がねえや、兎に角この場をふける事にせざアなるめえ」

「ふけるつて、お前さん、逃げる事かえ？」

「さうだよ」

「ぢや妾も連れて行つておくれだらうね？白藏さん」

「好きな[illegible]

と、[illegible]

國共紛爭の解決急ぐ
中共遂に全面的受諾

國共調整案

【上海二十八日同盟】八中全會を前にして重慶首腦部は鋭意國共紛爭の急速解決を計りつゝあつたが、二十八日當地に入つた情報によれば、中共は去二十五日、西安に幹部會を開き、重慶側より回附された國防委員會の十二ケ條の國共調整案を審議した結果、遂に同案を全面的に受諾する事となり、その旨重慶に通告すると共に要人を重慶に常駐せしめ今後の細目折衝に當らしめる事になつた、茲に於て重慶側は二十八日、過般新設した國共調整特別委員會第一回會議を開き、最後的態度を定めた上、近く開始の八中全會に現在迄の折衝經過並に妥協案の内容を報告する段取りと謂はれる

國民政府 全國軍事會議

【南京二十八日同盟】板垣總參謀長並に金澤海軍武官は二十八日午前十時から目下開會中の國民政府全國軍事會議第四日の會議に臨み、それぞれ陸海軍に關する軍事講話をなした、尙同日の會議に於て八十件に及ぶ諸懸案か通過成立した

國府還都一周年祝典
近衛首相 祝電を發す

【東京廿九日同盟】近衛首相は卅日の國府南京還都一周年紀念祝典に當り、汪精衛國府主席宛て左の如き懇篤な祝電を發した

國府の基礎愈々强固を加へ、その業績益々顯著なるを讃へ、その將來の多幸隆昌ならんことを祈念す

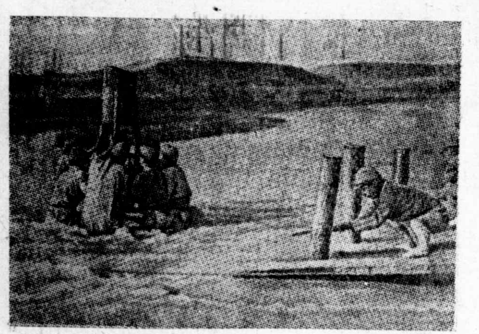
尙首相は、同時に外相事務管理の資格に於て、王揖唐河北行政委員長宛て、河北政治委員會成立一周年慶賀電を發した

飛び來る彈を身に浴び
新黄河に架橋

【河南戰線發】新黄河河畔を席捲した佐久間部隊は、今次作戰は何分にも三年前の黄河決潰の氾濫地帶一帶の作戰地區だけに、未だ乾ききらぬ濕地帶を行く佐久間快速部隊の行動の陰には不眠不休の松森高木兩工兵隊の涙ぐましい活躍を忘れる事は出來ない、何しろ五キロ行つては沼、十キロ行けば河といふ樣に快速部隊を拒むこれら自然の抵抗を物ともせず、一夜も二夜も寢もやらず鐵舟に戰車を乘せて對岸へ運び、また流氷の濁流に二時間も三時間も身體を腰までつけて架橋する勞苦しかもその間敵の射つ小銃彈は身近の河中に薄氣味惡い飛沫をあげるなかに心身を滅却して作業する工兵の姿は、待機する快速隊の勇士らに神樣の如く尊く仰がれるのだつたかくして緊密なる連繫のもとに快速部隊の面目を思ふ存分發揮して河南、安徽の野に敗敵を追究多大の戰果を得ることができたのである、

◇◇◇

◇



濁流に身を浸して橋架を打込む

國民學校が始まる
愈々四月一日より
各外地も一齊に採用

【東京二十九日同盟】内地に於ては、來る四月一日から初等普通敎育に關し、國民學校を創始する事となつたが、朝鮮、台灣、樺太、南洋群島の各外地に於ても同樣の趣旨に基き、右内地の例に準じ、同じく來る四月一日から國民學校制度を採用する事となつたが、尤も各外地は各社會の事情がそれぞれ内地と相當異つてゐるので、國民學校の組織構成等に就ては若干の特殊性をもたしめる事となつた

佛印より割讓新領土
泰國合理的管理法を考究
民間航空路開始も實現！

【バンコック二十九日同盟】泰國政府は、東京調停會議の結果、佛印より割讓される新領土に對する合理的管理に關し考究中であるが、當地新聞の傳へる處に依れば、同地方に適用する法律に關し特別委員會を設ける事に決定すべく司法大臣より委員が銓衡任命された、また新領土内の主要都市を聯絡する民間航空路開始も近き將來實現するものと觀られ、更[illegible]の他各種商業機構の施設も計畫されてゐると謂る

超短波

副總裁に柳川氏

廿九日附を以て翼賛會副總裁に柳川兵助氏、事務總長に石渡莊太郎氏が就任する事に正式決定を見た、尙柳川副總裁は當分の間、司法大臣を兼任する事となつた

石炭配給決定

昭和十六年度上半期、即ち四月から九月までの石炭配給量は、昨年上半期消費量より一割增と決定した

日高氏公使に

日高參事官は、廿九日附で公使に任ぜられ、中華民國出張を命ぜられた

罷業三十三件

北米では各地に軍需工場の罷業續出、軍擴に大支障を來してるが、廿九日當局の發表に依ると罷業三十三件、百二十七工場、一週間の勞働損失延時間三百五十万時間

邦人の海外發展狀況

メキシコ	五、四八一
キューバ	六六三
サルバドル	七
パナマ	三五五
コロンビア	二九四
ヴエネズエラ	二五
ペルー	二一、六五六
ボリビア	七一九
チリー	七〇八
ブラジル	二〇二、二一一
アルゼンチン	六、八九三
パラグアイ	六二〇
ウルグアイ	九三

中南米に於ける在留邦人の約九六%は農業に從事し、その他のものが水産、工業、商業公務及び自由業等に分れてゐる、その農産物の年産額は一億七千万円に上り、主なる會社の投資額約二千万円となつてゐる

南米移民の大宗はブラジル移民である、約二十万人の邦人中殆ど全部、すなはち九七%は農業に從ひ、農産物の年產額は一億四千万円に上り『其中綿花』の一億五百万円、珈琲の三千二百万円が主なるものである、ブラジルの邦人は主としてサンパウロ州に住み同州の邦人の經濟的勢力は相當大きい、棉花などは州の全產額の半は邦人の手で栽培されてをり、米、野菜、麻、バナナ、紅茶などの生産も大いに將來を期待されてゐる、なほアマゾン地方の新産業であるジュート栽培の成功もひとへに邦人の絶えざる苦心努力の結果である、本邦各地物產のブラジルに對する輸入、本邦必需品の對日輸出、其他同國に於る有望な工業、本邦において必要とする鑛物の取得業、本邦人は各方面に活潑な活躍を見せてゐるが、同國への入國は昭和十年に實施された移民制限法によつて、年々三千人程度認められてゐるに過ぎない、アルゼンチンに於る邦人は、首都ブエノスアイレスとその近郊で『蔬菜、花卉を栽培してをり其年額は蔬菜』が百廿五万円程度である

ペルーはブラジルに次でゐるが同國は昭和十一年移民入國法を改正し、同國に在留し得る邦人移住者の限度を一万六千人と定めたので、在留邦人二万に達する現在では、その入國は事實上禁止されてゐるわけである、ペルーの邦人も當初は主として同國の砂糖耕地で勞働してゐたのであるが、その土地制度と農耕事情により勞働者から獨立農業者たる事が極めて困難であるために、兎角農耕地を去つて都會に集まり、現在は主としてリマ市カイヤラ市等、都會地に流れて小商業を營んでゐるが、そのため同國の中產階級以下の者と利害が衝突し、この事が排日の一因となつて、昨夏の如き不幸な事件が發生したものと思はれる、よつて現在我が政府は都市に集中した邦人を奥地に分散歸農せしめる計畫を立て鋭意研究中である

同國の邦人農業者は主として棉花の栽培に從事し、その年額は約二千二百万円に達してゐる、南米において今後邦人發展の豫期されるのはパラグアイで、こゝ三、四年間にすでに六百人以上の邦人農業者が進出し、更に毎年相當數の移住者が農業の樂土を求めて移住する見込みである

中米で邦人の最も多く在住する國はメキシコで、農業、畜産を主として物品販賣業がこれに次いでゐる

現在中南米は邦人の進出すべき地方としては、入國法の關係上必ずしも數の多きを望むことは出來ないが、經濟的に頗る好望の地と言つて差支ない、昨今の世界的風潮ともいふべきナショナリズムの擡頭は、中南米諸國をもその渦中に投ぜしめ、種々困難な問題が發生しはじめ、したが、邦人はよく自重し、ますますこれ等の諸國との文化的、經濟的提携のため努力しつゝある

（終）

よくきく、のみよい
肝油ハリバ

リエゴルモン
（植物性ホルモン）
丈夫な野菜の苗を望む方は本劑を奬める
時報商事部

求人
地方外交員 一名
但しプ・プルデンテ支社勤務
右至急入用に付希望者は履歷書持參直接支社へ來談ありたし
伯剌西爾時報社
プ・プルデンテ支社
R. Ruy Barbosa, 451 - C. Postal, 37
Est. P. Prudente - L. Sorocabana

CLINICA Dr. José Muniz de Mello
Rua Boa Vista, 116 - 3° andar - salas 301,
302, 303 - Tel. 2-5822 - S. Paulo
脫腸 — 陰嚢水腫 入院を要せず
無痛無手術局部注射に依る
根本治療 — 皮膚病・濕疹・雲脂症
丹毒・若禿 親切・丁寧・廉價
診察時間 午前九時＝十一時
午後二時＝六時

アメンドイン
ジヤポネース
日支豆
製造元卸專門
菅井兄弟商會
聖市バロン・デ・イグアツペ街九三二
電話七—七二五五

求人
市内配達人 一名
青少年
半日勞働勤學ニ適ス
御希望の方は午前七時まで本社工場へ御來談下さい
時報社

社告

謹啓 時下愈々御隆昌之段奉賀候

陳者弊社外交員

大西武雄儀

今回貴地方訪問致させ候に付ては宜敷御配慮の程御願申上候 敬具

昭和十六年三月二十七日

伯剌西爾時報社

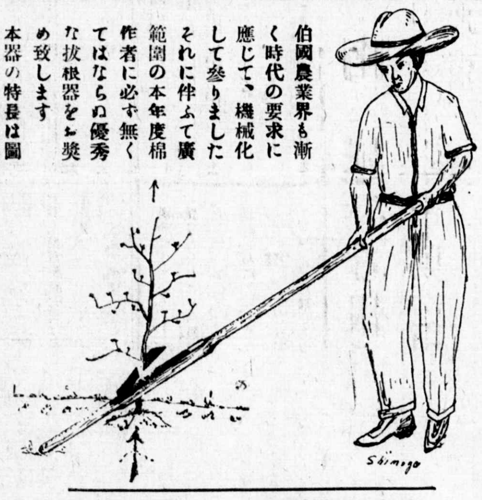
パウリスタ本線

在住各位

營業種目
各種合金鑄物
諸機械製作並請負
設計及製圖
菅井製作所
自宅 聖市バロン・デ・イグアツペ街九三二 電話 七—七二五五
工場 聖市ドツトール・トーマス・デ・リーマ五四四

新體制に應じて造られた
下矢式拔根器

伯國農業界も漸く時代の要求に應じて、機械化して參りましたそれに伴ふて廣範圍の本年度棉作者に必ず無くてはならぬ優秀な拔根器をお奬め致します
本器の特長は圖の如く、使用簡單にして棉の木の如何なる細いのでも太いのでも思ふまゝに拔く事が出來丈夫でお値段も安く、能率に於ては在來品を遙かに凌駕するものであります是非御求めの上御試用あらん事をお願ひ致します。



特許登錄番號 二五七七九
リンス市
下矢鐵工所
C. P. 203 E. Lins L. N. O. B.
地方販賣店急募致します

Casa Allemã
顧客皆樣に1941年度冬物用品多數入荷、弊店總ての飾窓販賣部廣大なサロンに今期流行品を陳列致しました事を御報告申上げます。
●
尙今度弊店ラヂオ・ツウピーと契約なり、毎日曜午後6時15分より7時45分迄オペラを連續放送奉仕致す事となり其第一回放送に伯人大作曲家カルロス・ゴーメスの音樂を選曲放送致します。
聽かれよ 今日 グアラニー ロ・スチアボー
オペラ斷篇 トスカ マリア・トウドール
1040キロサイクル ラヂオ・ツウピー
午後6時15分より7時45分
"カーザ・アレマン" 提供精選曲
Schaedlich, Obert & Cia. Rua Direita 162—190

Um fino produto
da moderna Industria
Japoneza
UNIVERSAL
É a nova Caixa Registradora que surge no Mercado Brasileiro .....
Fabricada especialmente para o Brasil
16 modelos diferentes .... Acabamento impecavel ....
É sobretudo preços verdadeiramente acessiveis!
「工業日本」が斯界に誇る
ウニヴエルサル金錢登錄器發賣
最新式最優秀品、新體制商法には是非必備を御奬めす。

MIL REIS
A01.000

定價二コントス五百ミルより各種
月賦販賣に應ず
（御申越次第カタログ進呈）
ウニヴエルサル金錢登錄器
特約代理店
小西商店
DISTRIBUIDORES:
KONISHI & CIA. LTDA.
RUA SENADOR FEIJÓ, 177
TELEFONE 3-1167 (REDE INTERNA)
SÃO PAULO

BANCO AMERICA DO SUL LTDA. BANCO AMERICA DO SUL LTDA. BANCO AMERICA DO SUL LTDA. BANCO AMERICA DO SUL LTDA.
南米銀行

見逃
オーロブランコ
◇—我が優秀なる棉作
◇—地價の高騰は必然
◇—好機逸する勿れ！
◇—乞ふ……來りて審
◇—昨年度入植者十二家

一、面積	
一、位置	ソ キロ
一、交通	平坦にして
一、地味	一面フイゲイラ エー、馬鈴薯等良く
一、價格	低廉—六百釬、現金拂一割
一、拂込	容易—三年年賦、無利子
一、地權	確實—附近にて定評あり
一、地主	サント・アナスタシオ市 ルイス・スタウテ ジヨゼ・スタウテ、オランド・スタウテ

◇—水質良く、風土病絶對になし！
◇—市街地を植民地の中央に建設、近々賣出しの豫定！
◇—電話……本年八月頃開通
"今すぐ"
求めんとする人は御視察下さい。何時にても歡迎し御案内申上げます
◆御視察の節は鈴木旅館へ御尋ね下さい
賣出總代理人
ソロ線サント・アナスタシオ市
下桐松夫
郵函九十番
地方代理人 ソロ線サント・アナスタシオ驛シヤーペ・マンザン
八重津榮
同 ソロ線アルヴアレス・マツシヤード驛
上地茂太郎

日本船が一番安全

勝手な米國人・切符に血眼

海國日本 話題は痛快

——日本船は大嫌ひだ——とひどく敬遠したアメリカ人が、日の丸船にどつと殺到便船ごとにこぼれるばかり一杯乗つて、戰雲の慌しく去來する大西洋上を繁く往來してゐるといふ痛快なニユースがある

まづ東廻りコースでは、さんとす、もんて丸などの各船がロスに入港すると忽ち一等船室は米國人で占められ、何個十人が斷られる始末——殆どがパナマ或はリオへ向ふ中南米行き商人である、從來紐育から迂廻してゞも日本船には乘らなかつた彼等が、つい二ケ月前からかくも日の丸商船を求めて切符買ひに血眼になりだした、またアフリカ廻りも各船の往復、復航共に超滿員で、此が殆ど米國商人であるこれにはかへつて日本の船員が戸惑ひした形だが、その理由を彼等に質すと「いや、むつかしい理由はありませんよ、かういふ情勢になれば日本船が一番安全だし、又日本船々長は優秀な航海術に通曉してゐることを知つてゐる僕等ですよ、商賣で南米へ行くのに何か面倒な：何國の船だつて問題ではありませんよ」

◇全米大陸諸國は、擧つて來る十四日の「アメリカの日」を記念するが、伯國でも例年に倣ひ全國各學校に於て記念する樣、文部省より各州學務局宛文書を以て通告を發した

◇昨廿九日早朝、北米船アルゼンチナ號で、ラテン・アメリカ文化國際委員會の招待で北カリフオルニヤ大學を視察中であつた聖市の各大學生一行が歸國したが、一行に對する彼地の歡迎振は大したものだつたさうだ

◇今迄沿岸航路に就航中であつたロイド汽船會社のアラチボー號は、最近紐育向け棉花輸送船として配船されたが同時に神戸、大阪港へも棉花を輸送する筈である、同船としては、之が最初の外國航路の就航であると

◇トレスバラス產組外交部長伊藤氏がクリチーバ市から來植したパラナ州廳產組獎勵局役員二名を案內して、ロンドリーナ市を訪問したが、各旅館共滿員客止に會ひ、雨の中を右往左往、夜遲く漸く某ホテルの一室を明けて貰ひホツとした——人氣の焦點？新興大都市ロンドリーナが如何に人の往來が激しいかを物語るもの

◇伯國邦畫興行社が時局柄、自信を以て公開する護國の母、〝杉野兵曹長の妻〟は既報の如く三日午後三時から五回に亘りパラマウント館で封切られるが世紀の祝典〝二千六百年ニユース〟も同時に上映される、入場券は既に遠藤書店、御國屋バーで前賣してゐる

◇亞國ブエノスアイレス貿易斡旋所々長齋藤直次氏は家族同伴昨朝サントス入港の商船ぶゑのす丸で歸朝の途につく

南米で邦品大もて

工聯會ブ市に出張所新設

今後宣傳に拍車をかける

母國東日紙は商工省南米市場調査團第二班の省貿易局施設課長水谷良一氏よりの電報として「わが工藝品に凱歌、南米で大歡迎」の見出しで次の如く報じてゐる

從來日本工藝品の最大顧客だつた合衆國にある日本工藝聯合會紐育出張所は二月一杯で閉鎖に決定、それに代つて南米方面に全力を注ぐことゝなり、先づ豫算廿万円を以て亞國首都ブエノスに四月から新たに出張所を設置、係員を送つて展示會その他で大いに日本商品の眞價を宣傳する一方、現在伯國聖市外六ケ所にある貿易斡旋所もこの際どしどし擴張することとなつた

日本工藝品 して最もうけてゐるのは漆器、瀬戸物、金工品、染色製品、木竹製品、理研アルマイトなどでこれは昨年來數回に亘つてブエノス、リオ、聖市などの重要都市で見本展示會を開いた結果、何れも展示品が全部賣切れといふかつて前例のない好成績を見たもので、特に七・七禁令で引掛つた西陣織の帶などが意外にもテーブルセンターなどに利用されて飛ぶやうに賣れ、其他高級ネクタイ、花器などもこれまでにない賣れ行きを示した事は注目される、その他の都市でも展示會開催の要求が續々あるのを見ても相當の將來性があると見られてゐる

親善の花

ブーゲンビリヤは日本がお好き

大阪で美しく咲く

昨年六月十三日、長い船路もつゝがなく神戸に着いたリオ市長から大阪市長に贈つた三百十株のブラジル苗木は、その後旭區城北公園の溫室で丹精こめて育てゝゐたところ、日本では氣候の關係でその成育があやぶまれたのに何れもよく育ち、中にもブーゲンビリヤは日本がすつかりお氣に召したか、去る二月五日の春立つ暖かい陽光に、ポツカリ白い美しい親善の花を咲かせた、この花は「私達の故郷ブラジルへ贈られた櫻、桔梗も今ごろは、リオ市で花を咲かせ妍を競ふてゐることでせう」とでも言ひたげな白い美くしい花であると（寫眞は同公園溫室で白く咲いたブーゲンビリヤ）

〝南に延びる報道線〟

東朝が新空路を開設

リオ←→東京

昨廿九日のオ・エスタード紙上リオ市の新聞宣傳局は、東朝社伯國特派員荒垣秀雄氏の伯國に於る通信員としての登錄を認可した旨傳へてゐるが、これに關聯し、左の如き興味ある記事を添加掲載してゐる

現在東朝社では、その新聞報道任務の爲め、廿數台の飛行機を各方面に間斷なく用ひてゐるが、さらに報道の迅速と擴充を期するため新航空路開設が同社首腦部間で討議されてゐる、之は東京を起點として一直線に紐育又はリオデジヤネーロに向け飛行するものである

南米向基地大阪へ

大阪國際無線振興會

無線利用者で組織してゐる大阪國際無線振興會ではこの程第二回總會を終つたが、先づ大阪を基地としてインド、濠洲向け國際電話開設、同中南米向け國際電話の基地を東京から大阪へ移管するの二件が議され、今後遞信省、大遞局など關係方面に陳述することとなりまた國際電話、電信の料金や暗號電報、寫眞電報などについての制度改善促進をめざして專門委員會を設けて徹底を期することとなつた

〝ラテン・アメリカ紀行〟

田中博士の著

一昨年外務省アメリカ局の委囑を受け日伯、日亞兩文化協會及びブエノス・アイレス大學の招請により兩國に足跡を印した文化使節田中耕太郎博士は歸朝後百五十日間の旅行に見聞きした事實をありのまゝ記錄した「ラテン・アメリカ紀行」と題する六百余頁の著書を物したが、此の程著書は大使館を通じて關係方面へ配布された

母國で力行會が開いた

海外小同胞作品展

聖市中山道子さんの作文も優秀

財團法人日本力行會は紀元二千六百年紀念事業として日、滿、支のほかハワイ、アメリカ、カナダ、ブラジル、南洋フイリツピンなどの海外小同胞の作品圖畫八二三點、綴方六九一點、書方六九一點を集め展覽會を開催、波濤万里の海外にある少年少女の朗かな報告書として永く後世に殘す爲同會に於て全作品を網羅した「日本民族小學生作品集」を編纂中であるが、その中に伯國からのものでは特に中山道子さんの「ニツポン號を迎へて」の作文が擧げられて居る、左は道子さんの送つた作文である

國をうづめた日の丸の歡呼の中に羽搏いてわがニツポンはまつしぐら

「あゝうれしいもう歌へる——」

「明日はすごいぞ——」と大聲でどなつたら「何です、男みたいなことといつて」とお母さんににらまれた「だつて、考へるだけでも……——」とまた飛び上つた、

「ブウン、ブウンブウン」と弟の幸ちやんはニツポン號だといつて兩手をひろげて家のぐるりを廻つてゐる、外國に出てゐる日本人は勿論父母の國を知らない第二世にとつてこれ程うれしい出來事はない、肩をいからして歩いても、まだ物足りない位だ

催しもの往來

ピンダ市で畜產共進會

昨廿九日中央線ピンダモニヤンガーバで、農務省主催の第三回畜產共進會がバーロス執政官臨席の下に華々しく開かれた

〝陸上〟

來月下旬亞國で開催される南米陸競の伯國代表を決定するの伯國豫選會が、昨日からチエテ競技場で行はれてゐるが今日がその最終日、開始は午前八時半から、邦人七選手も加はつてゐるが好成績を收めるであらう

〝リーグ〟

聖市實業野球リーグ戰第四日、球場はお馴染のカ・ナカオ、正午からコチア對羽瀨、二時半から日伯對蜂谷、四チーム共に一次戰では白星で通つた土つかず、然し今日は何れかゞ黑星を摑む運命にある二試合共興味を呼び起す好ゲームとならう

〝遠征〟

對羽瀨戰に一敗地に塗れた西谷チームはけふ午前サンカエターノに遠征して、同地チームと一戰交へ腕を練る

〝遠足〟

岡田老の郊外遠足も今度はチト遠い、けふ、あすの二日間で景勝の地カンポス・ド・ジヨルドンに足を延ばす

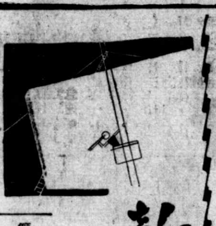
結婚

商船サントス勤務津崎三壽氏と杉本芳之助二氏女クララさんは商船支店長欠田豊一郎氏夫妻の媒酌で、昨日午后五時より杉本邸に於て華燭の典を擧げた、商船津崎氏は在伯五年、惜まれつゝも本社へ榮轉、明卅一日出帆のぶえのす丸で退伯するが、この歸朝の航海が新婚旅行となる譯

新しき土を拓く人々 (18)

日伯關係の黎明期

南樹



—十八—

○—サン—○

パウロ州農務長官は截斷水の流るゝが如き人である。彼は何の躊躇する所なく杉村公使の質問に即答へた。

第一項　御申出の事情は尤もと聞こゆれば、最初は日本移民に限り、特別法を設け單身者と雖も旅費を償給することゝ爲すべし。午去單身者は去就常なく雇主に困難を感ぜしむること多ければ三、五人一組となり、家屋に同住し、互ひに相制して容易に耕地を去らしめざる樣にしたし、當州政府は日本移民を希望すれば、最初は可成鄭重に之を取扱ふことゝすべし。又最初移民を送る時期は四月を可とす。同月は漸く秋冷に向ひ且珈琲收穫の季節に近づき移民の收入最も多き際なれば、何卒其頃に到着する樣計畫あらんことを望む。

第二項　歐洲移民に給與すべき旅費は距離に幾分差等あるも大低六磅內外なり。日本は距離遠しと雖も、政府の都合もあれば七磅位迄を給與し得る見込なり。但し此點緊要問題なれば必要の場合に臨み書面にして協議すべし。

第三項　旅費は後日返濟を要せず。

○—總て—○

杉村公使の滿足を買ふに足る返答であつた。茲で私は杉村公使が明治三十八年六月三十日附を以つて外務省に報告した、「南米伯剌西爾國サンパウロ州移民狀況視察復命書」は歷史的に見るも、私などはグレンフアーグ號で之を繙讀して感激措く能はざる點から云ふも、是非出來る丈け詳細にそれを紹介したいものである

しかし之を記載するには我が外務省發行の通商彙纂が必要なので、之を借覽に態々總領事館へ出掛けて賴んで見たが係りの役人は斯樣なことに何等の關心もなく、保存して有るか無いかさへ碌に尋ねても吳れなかつたは落膽せざるを得なかつたと云ふよりは寧ろ憤慨を禁じ得なかつた。

○—そこ—○

に至るとブラジルの役所などは親切にして行き屆いたものであつて、州農務局の圖書部へでも行くなら如何なる微細な記錄でもきちんとエンカデルナされて保存され、所員は當方の知らんとする事項に對し懇切丁寧に探し出して吳れるのだから有難い。實際私などは殆ど每日の樣に政府の役所に顏を現はすのであるが、之を五月蠅いともせず、殊にアギアル圖書部長の如きは農商務局の圖書部に無い本で、自分が所持してゐる場合は「今晩自宅へ來たまへ」と云つた具合ひの親切さである。是と云ふもブラジル人はそれ程研究人に對し理解が深いので研究人側からすれば自然敬意を表したくなるのである。

○—之に—○

反して我が總領事館では、當然保管さるべき通商彙纂を碌々尋ねもせずして斷はるは保[illegible]の不親切か、或は總領事館の不行屆きか、兎に角左樣なことは早速改めて貰ひたい。私は文藝春秋の本年一月號で「法隆寺壁畫の模寫が一日汗みどろになつて努力した結果が漸く一寸四方しか出來ない」と云ふ勞苦を讀んで感激させられたが、私なども數行の日本移民關係の記事を三、四十年以前の新聞から拾ひ出す爲め、オ・エスタード紙の工場の二階のバンコに腰を下して調べる辛苦は仲々容易なものではない。チト總領事館邊りの役人も眼前の事のみに沒頭せず、研究人の苦心にも思ひ遣りを持つては如何なものかと苦情を云ひたくなるが、これは云ふ者の無理であらうか。

◆

棉の相場

サンパウロ棉花取引所建値　三月二十八日　單位 十五キロ

	買値	賣値
四級	四三、〇〇〇	四三、五〇〇
五級	仝	仝
六級	仝	仝

重要商品市況

三月二十八日

	單位	買値	賣値
○バタタ	六〇キロ		
アマレーラエスペシアール		ノミナル	
ファリンニヤ			
マンヂオカ	五〇キロ	二四	二五
○小麥粉一級		三三〇	三三、〇
砂糖	六〇キロ入		
極上		七二、	七三
上等		六九、	七〇
アルフアフア	一キロ	四三〇	四三〇
◎フエジョン	六〇キロ		
△新ムラチンエヨ			
スペリオール		三五	三六
エスペシヤル		三八	三九
ボン		三三	三三
レグラール		ノミナル	
△コーレス	六〇キロ		
ブ・グラード		ノミナル	
フランシンエヨ		ノミナル	
シユシピンエヨ		三九	四〇
△ミリヨ	六〇キロ		
アマレリエヨ		一七、五	一七、六
アマレロ		一七、五	一七、六
アマレロン		一七五	一七、六
△アローズアグリア			
アマレロン			
エスペシアール		七八	八〇
スペリオール		七二	七四
ボン・		ノミナル	
レグラール		ノミナル	
ブランコ			
・スペシアール		七二	七五
スペリオール		六八	七〇
△ボン		ノミナル	
レグラール		ノミナル	
△キレーラ		三八	四〇
△メイオ		四二〇	四五〇
カテテ			
△エスペシアール		六四	六五
スペリオール		ノミナル	
ボン		ノミナル	
豚（オザスコ相場）			
ゴールド		三三、五	
マーグロ		三三、〇	
マモナ	一キロ	五七〇	五八〇
セボーラ・リオ・グランデ			
バンエヤ	二〇キロ	三〇、二	三一、三

蔬菜市場

三月廿九日（コチア產組調べ）

トマテエスペシアル	四二	四八
ブリメーロ	三六	四〇
セグンド	二六	三四
レボーリオ	一五	二五
ピメントン	四	八
パージ	二〇	三〇
エルビーリア	二〇	三三

社告

謹啓時下益々御清祥之段奉賀候、陳者弊社各外交員を頭書の地に差し向け居り候間宜敷御配慮の程御願申上候

◆聖市市內　菊地　鐵彌

◆ブ・ブルデンテ附近　茂木源太郎

◆トレスパラス方面　纐纈　久雄

◈ロンドリーナ、ノーバ・メンチヒ、ローランヂア　髙橋朝太郎

◈パウルー附近　川崎　辰男

◈ドアルチーナ、カブラリーア、ブラジリーア、アルバ、ピラチニンガ方面　田代　重守

◈マリリア、ペラクルース、ガルサ方面　本多　彬

◆ボンペイア、キンターナ、サンターナ方面　本多　聖

◆サントス、サントス・ジユキア、パウリスタ本線方面　大西　武雄

◆アララクワラ、ドラデンセ　中川　忠吉

印刷物擔當外交員

◎ガルサ、ペラクルース、マリリア、ボンペイア、ツパン町）方面　尾山　龜吉（マリリア支社員）

◎ノロエステ線各驛　龜井（リンス支社員）

昭和十六年三月

伯剌西爾時報社

蚊は人類最惡の敵

國內諸著名マラリヤ大家の說に依りますと人間に對し一番危險な蚊はマラリヤ傳播者として病者を發す率から六二%といふ高率を感染せしめるアノフエレスガンビアエであります。今日に至る迄斯の如く高度の傳播率を有する蚊を認め致しません。實に此アノフエレスは疫原蟲傳播者として〝人類最惡の敵〟であります。アフリカ大陸より十年此方ダカール、ナタール二冊間を三日と要せず航行する快速船舶に依り侵入し來り外國より侵入し來た疫病中最惡のものであります。北伯は既に侵害されてゐますが、他州への傳播防止にマラリヤ撲滅衞生委員は懸命の活動を爲し、近き將來に於て新患者發生防止に甚大なる効果を擧げる事を期待されてをります。それから此蚊は種々の特徵を有してをります。光の作用を必要とし又昆蟲學

或期間水底に生棲し水面

ります。此等種

撲滅作業上

スの

黒崎市郎

福島縣人　二十一歳

人相は眼鏡を掛け　ネヅミ色ブリンのジヤンバ服を着用せり、右の者は不正の行爲ありたるに付　御發見の方は至急當館迄御一報相成度願上候　尙又當館とは今後一切關係無之候間右管內在住者諸賢に謹告仕り候

ソロカバナ線　サンク・クルース・ド・リオ・パルド市

サンタ・クルース管內人名錄發行所

上野寫眞館

FILM 伯國邦画 FILM

日活多摩川大作

★護國の母★（本映畫の聖市での上映は今回限りです）

ウエスタン全發聲　杉野兵曹長の妻

特別追加　曠古の大式典　紀元2600年祭實況

4月3日シネマ・パラモント

—（總領事館の近く）—

午后2時より12時迄5回連續上映

伯國邦画興行社

麻雀大會

一、期日　四月五日（土曜日）午后七時より

一、申込者四月三日迄

一、會費　金十針也

一、賞品　三等迄

一、場所　コンデ・デ・サルゼーダス街七一番

一、主催日の出俱樂部（電話二一—〇五三五）

貸間

靜かな場所にて至便なり、安く貸します。アクリマソン區 R. SATURNO, 361（オニブス十六番、十七番）

肝臓の膽汁を活潑ならしめよ

食養生の要なく每朝元氣に滿ちて起る法

多量に肝臟から排泄される膽汁が若し止まりたれば消化不良となり胃內に不純なガスが溜り便秘を伴ひ身體の衰弱を招き生活の惱みとなり普通の手當では癒らず唯肝臟特効 Carters 藥あるのみ、これを用ひれば即座に癒り元氣は奇技的に恢復する PILULAS CARTERS を今急お用ひなさいよ、藥物あり

注意　一ケ三ミル

求む

果樹園ニ働ク家族者或ヒハ青少年

セントラル線フエラス・デ・ヴアスコンセーロス驛

ローマノポリス　宇多賀敏次

伯剌西爾時報社

昭和十六年三月

（リンス支社員）

小さな鑢工場

資本不足にて讓り度し。御照會は希望者自接にラッパ區ガゴ・コウチイニヨ街一七二

日曜日八時半から正午迄

週間　午後七時から十時迄

女中さん入用

通學の餘暇あり

家庭的によく働いて戴ける方出來る丈優遇致します

聖市パウラ・ソウザ街二九〇　電話四—四六六一　郵函三五三七

自宅　カンタレイラ街六九七　電話四—八四五七

破魔兄弟商會

借家の御周旋を致します

多數外人家主と連絡あり

聖市オンゼ・デ・アゴスト街二八番二階七號室

藤井商事

電話　三—四九三九

店員募集

一、少年十四、五歳位　二名

一、青年十七—二十歳位　參名

夜間使學の餘暇あり　右履歷書持參本人面談を要す

聖市　イルマン・シンプリシアーナ街一

羽瀬商店

Redação — Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, 11

Director Masahiro Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno ..... 60$000
Semestre . . 30$000
Numero do dia .... 300 reis
Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIV — S. PAULO — DOMINGO 30 de MARÇO de 1941 — DIARIO No 2442

O sr. dr. Adhemar de Barros visitou, hontem e hoje varias cidades do Valle do Parahyba

PROGRAMMA DA VIAGEM DE S. EXC.

O sr. Interventor Federal, dr. Adhemar de Barros, visitou hontem e hoje algumas cidades do Valle do Parahyba, inaugurando diversos melhoramentos locaes e proseguindo em sua faina de bem conhecer as necessidades dos diversos municipios, afim ordenar, com pleno conhecimento de causa, as medidas que se fizerem exigir.

Nesta viagem, o Chefe do governo estadual visitará as cidades de Pindamonhangaba, Lorena e Cruzeiro, fazendo-se acompanhar por alguns dos seus auxiliares immediatos de governo.

A partida de s.exc. que viajou de avião está marcada para hontem ás [illegible] horas. Deixou esta capital, o sr. Interventor Federal seguirá directamente para Pindamonhangaba onde deverá chegar ás 9,45 horas. Após receber os cumprimentos das autoridades locaes e dos municipios proximos o sr. dr. Adhemar de Barros dirigir-se-á para o Haras do Estado, afim de presidir á solennidade de abertura da 3.a Exposição Regional Agro-Pecuaria, a realizar-se naquella cidade. A ceremonia em apreço está marcada para as 10 horas, devendo, ás 14,30 horas o sr. Interventor Federal e sua comitiva proseguir viagem para Lorena.

EM CRUZEIRO E CACHOEIRA

Hoje, o sr. Interventor Federal visitará a cidade de Cruzeiro, assistindo a diversas solennidades preparadas em sua homenagem e inaugurando alguns importantes melhoramentos locaes.

Do programma organizado consta, primeiramente, a realização de uma parada trabalhista e escolar, seguindo-se-lhe a inauguração solenne da nova ponte sobre o rio Parahyba.

Após visitar a Escola Normal, o Gymnasio e a Santa Casa locaes, o Chefe do Executivo paulista participará do almoço que, em sua honra, será realizado no Theatro Capitolio, ás 13 horas.

Em seguida s. exc. fará uma visita á Prefeitura assistindo depois a uma sessão solenne no forum.

A's 16,30 horas, viajando de automovel o sr. dr. Adhemar de Barros deixará a cidade rumo a Cachoeira, onde terá festiva recepção por parte das autoridades locaes e população.

Nesta ultima cidade, s. exc. visitará a Prefeitura onde se realizará a solenne inauguração dos retratos do sr. Presidente Getulio Vargas e sr. Interventor dr. Adhemar de Barros. Terminada esta cerimonia, o Chefe do governo irá presidir ao acto inaugural dos serviços de abastecimento de agua da cidade.

Segunda-feira viajando de avião o sr. dr. Adhemar de Barros regressará a S. Paulo.

Creado o Departamento Nacional de Estradas de Ferro

RIO, 28 (Pelo telephone) — O sr. Presidente da Republica assignou decreto creando o Departamento Nacional de Estradas de Ferro, cujas principaes attribuições abaixo transcrevemos:

«Pelo programma referente á viação ferrea comprehendido no plano geral de viação nacional, estudando e propondo as medidas necessarias á sua realização; propor o estabelecimento de normas geraes a que se deva subordinar toda a actividade ferroviaria do paiz; estudar e propor a concessão de autonomia administrativa e financeira ás estradas de ferro a cargo da União tendo em vista as vantagens que desse regime possam advir; superintender a administração das estradas de ferro a cargo da União, de sua propriedade ou por ella occupadas; propor fundamentalmente a encampação das estradas de ferro que não estiverem attendendo aos interesses nacionaes ou nas zonas e regiões a que servirem; rever ou elaborar projectos e orçamentos para a construcção de novas vias, prolongamentos, variantes ramaes desvios e edificios; reunir dados estatisticos de consumo de material ferroviario para o estudo de questões relativas á acquisição de utilidade ferroviaria no paiz ou no estrangeiro; estudar e propor ao Ministerio de Estado a fixação de zonas de influencia das estradas de ferro de forma a evitar competição damnosa no seu equilibrio financeiro; estudar e propor a revisão de contractos ferroviarios onerosos aos cofres publicos; organizar, manter em dia e promover a publicação de estatistica coordenada das actividades ferroviarias do paiz, observadas as normas que forem estabelecidas pelo Instituto Brasileiro de Geographia e Estatistica e pelo Conselho de Segurança Nacional; colligir os elementos necessarios ao perfeito conhecimento da situação economica e financeira das estradas de ferro».

98.° anniversario da fundação de Petropolis

PETROPOLIS, 28 — Iniciaram-se ontem grandes festejos populares promovidos pela Directoria de Educação e Cultura da Prefeitura Municipal para solennizar o encerramento da Exposição Commemorativa da Inauguração do Museu Imperial e 98.o anniversario da fundação da cidade.

Hoje e amanhã, continuará a ser executado um magnifico programma que culminará com as festas de domingo das quaes o numero mais sensacional é o da prova automobilistica «subida da montanha», com a disputa do 4.o Grande Premio «Cidade de Petropolis». E' muito grande o numero de turistas que affluiram á cidade serrana, sendo poucos os lugares restam nos grandes hoteis.

CARTAS DE MOTORISTAS

Da Directoria do Serviço de Transito recebemos o seguinte communicado:

«A Directoria do Serviço de Transito communica aos interessados que, terminando improrrogavelmente em 8 de Maio do corrente anno, o prazo para revalidação e substituição de cartas, conforme determina o decreto-lei n. 9.843 de 20-12-938, daquella data em diante, ficarão os motoristas que não regularisarem os seus documentos, impedidos de conduzir os seus vehiculos, pelo que devem satisfazer, quanto antes as exigencias determinadas pelo citado decreto».

O 2.° anniversario do sr. dr. Carneiro da Fonte na Chefatura de Policia

Commemorando a passagem do 2.o anniversario da posse do sr. dr. João Carneiro da Fonte no cargo de Chefe de Policia do Estado, os delegados de policia e demais altos funccionarios daquella repartição offereceram-lhe um almoço na séde do Clube Paulistano de Tiro, além Tremembé.

Quando o dr. Carneiro da Fonte chegou áquelle recanto pittoresco do Horto Florestal já ali se encontravam os srs. drs. Moura Rezende e Mario Lins Secretarios da Justiça e da Educação; Antonio Emygdio de Barros Filho e major Gentil de Castro Filho chefes das Casas Civil e Militar da Interventoria; Alfredo Issa Assaly, director geral da Repartição Central de Policia; tenente-coronel Euclydes Marques Machado, commandante do Batalhão de Engenharia da Força Policial; cel. Christiano Klingelhofer, commandante da Guarda Civil; coronel Scarcela Portella, superintendente da Ordem Politica e Social; Aguinaldo de Góes, director do Serviço do Transito; major Mario Rangel, director da Loteria do Estado; drs. Abner Mourão e Oliveira Cesar, respectivamente director do «Estado de São Paulo» e superintendente do «Correio Paulistano»; Eduardo Pellegrini, representando a Associação Paulista de Imprensa; dr. Luiz Gonzaga Mendes de Almeida, Nelson da Veiga e Joaquim Secco, respectivamente, delegado regional de Santos, inspector do Serviço de Transito e inspector da Policia Maritima, da mesma cidade além de todos os delegados auxiliares e delegados de circumscripção e os especializados do Gabinete de Investigações, com o seu chefe, dr. Augusto Gonzaga á frente.

Após rapidos momentos de palestra e algumas demonstrações de tiro ao vôo, foi servido o almoço em que tambem tomou parte o presidente do Clube Paulistano de Tiro sr. Pedro Gad. Sentaram-se ao lado do homenageado os srs. drs. Moura Rezende, que representava o sr. Interventor Federal e Mario Lins, Secretario da Educação, tendo feito a saudação ao dr. Carneiro da Fonte o dr. Durval de Villalva 1.o delegado auxiliar, que pronunciou o seguinte discurso:

Abreviar

Chegou antehontem a esta capital o sr. Ministro da Guerra

Chegou antehonte a esta capital o sr. general Eurico Gaspar Dutra, illustre titular do Ministerio da Guerra, S.exc. que viajou de automovel, em companhia de s. exma. esposa e elementos de seu gabinete, chegou a S. Paulo ás 15 horas, dirigindo-se para o Hotel Esplanada, onde ficou hospedado.

Após um rapido descanso, o sr. Ministro da Guerra acompanhado pelo seu ajudante de ordens, seguiu para o Palacio dos Campos Elyseos, realizando uma visita de cordialidade ao sr. dr. Adhemar de Barros, Interventor Federal.

Recebido pelo Chefe do governo paulista em seu gabinete de trabalho mantiveram ss. excs. prolongada palestra finda a qual o sr. general Gaspar Dutra e sr. Interventor dr. Adhemar de Barros realizaram uma visita ao Hospital Syrio-Libanez, desapropriado pelo Governo do Estado para servir de séde provisoria á Escola de Cadetes a ser installada em S. Paulo. Deixando este edificio as illustradas autoridades fizeram demorada visita á cidade, percorrendo alguns dos principaes trechos da Paulicéa e examinando os melhoramentos obras e edificios ultimamente mandados construir pela Municipalidade e pelo governo do Estado. Durante esse passeio, o sr. dr. Adhemar de Barros teve ensejo de mostrar ao titular da pasta da Guerra algumas das realizações do Estado novo em S. Paulo. Assim, ss. excs. após terem visitado os terrenos onde será edificada a séde definitiva da Escola de Cadetes, percorreram a Avenida Nove de Julho os tunneis sob o Trianon a avenida Brasil o Jardim America e alguns bairros residenciaes, passando, depois, pelo Hospital de Clinicas e Estadio Municipal.

Terminada a visita á cidade, o sr. general Gaspar Dutra dirigiu-se para o Hotel Esplanada, emquanto o sr. Interventor dr. Adhemar de Barros seguia para o Palacio dos Campos Elyseos.

VISITAS RECEBIDAS

A reportagem do O Jornal que desejava avistar-se com o sr. Ministerio da Guerra, foi ao seu encontro no Hotel Esplanada, verificando então que s. exc. recebia a visita dos srs. general Mauricio José Cardoso, commandante da 2.a Região Militar dr. Marcondes Filho, do Departamento Administrativo, Secretario d'Estado, altas autoridades civis e militares além de numeroso grupo de amigos e admiradores.

Na mesma occasião a exma. sra. Gaspar Dutra era visitada pela sra. d. Leonor Mendes de Barros, esposa do sr. Interventor Federal, e outras senhoras das suas relações nesta capital sendo, assim, grande o circulo de altas personalidades reunidas no Hotel Esplanada.

DADOS COLHIDOS SOBRE A COLONIZAÇÃO JAPONEZA NO ESTADO DE GOYAZ

No anno de 1916, por intermedio de um japonez de nome Takizawa, foram encaminhadas para o Triangulo Mineiro 20 familias de agricultores japonezes que estavam localizados no Estado de S. Paulo.

No anno de 1923, algumas dessas familias se transferiram para o Estado de Goyaz, onde começaram a trabalhar na lavoura, e onde prosperaram.

Em Outubro do anno de 1940 já existiam em Goyaz 58 familias japonesas com 285 pessoas.

Dessas familias 30 são proprietarias de terras com uma area de 1.506 alqueires Paulistas destacando-se dentre ellas as familias seguintes: Fukuzo Matsuoka; Eitoi Watanaba; Zenjojo Watanabe; Junjuro Massuda; Moritaba Namba; Kanematsu Oki; Kenichiro Iwamoto e Setsugo Nichi.

Essas familias tratam de plantação de cereaes e agricultura em geral, criação de animaes etc., achando-se todas em optimas condições financeiras vivendo independentes, sofrendo entretanto da falta de educação para seus filhos por falta de escolas.

A Lavoura principal dessas familias japonezas é a seguinte: Café; Arroz; Canna de assucar; Milho; Feijão etc. e criação, tendo tambem uma fabrica de Pinga.

A colonisação dos japonezes está distribuida em 10 bairros principalmente nas imediações da Villa Neropolis; altitude a 700 metros acima do mar, clima excellente porem a fertilidade das terras não são tão boas como as da zona Mogyana deste Estado.

Os agricultores japonezes ali localizados, acham que o estado de Guyaz é de grande futuro principalmente Goyania que conta actualmente com 43 mil habitantes.

Acreditam estes agricultores que a plantação de verduras, frutas e flores e criação nas imediações de Guyania dará optimos resultados dependendo tudo do desenvolvimento de capital empregado e o criterio adoptado.

O Governo de Goyaz pretende fazer uma colonia a 50 kilometros distante de Goyania, porem achamos que é distante demais por emquanto, por não existir estradas boas para o escoamento da producção o que acarretaria n'um fracasso essa colonia. Entretanto poderá bons resultados desde que fosse ligada por boas estradas o que sómente poderia conseguir com auxilio do governo de Goyaz.

Houve um tempo em que agentes de Companhias de terras andaram vendendo para japonezes e outras nacionalidades lotes de terras alegando que em futuro proximo a Capital do Paiz, se mudaria para lá, verificando-se depois essa impossibilidade para futuro proximo, pensamos que tenha trazido algum atrazo na colonização em geral daquelle Estado.

O meio de transporte em Goyania é um tanto deficiente pois que ainda se emprega quasi que na totalidade carroças, talvez pela falta de boas estradas e pelo preço da gazolina que é muito cara.

O Estado de Goyaz é ligado ao de S. Paulo desta forma:

Ribeirão Preto á Goyania 810 kilometros.

S. Paulo á Goyania 1.230 kilometros.

Estas são as informações que podemos colher sobre os colonos japonezes no Estado de Goyaz.

CORRESPONDENTE NO BRASIL DO MAIOR JORNAL DO EXTREMO ORIENTE

RIO 28 (Via Vasp) — O Departamento de Imprensa e Propaganda acaba de conceder registo, como correspondente estrangeiro, ao sr. Hideo Aragaki, representante no Brasil do «Asahi Shimbun», de Tokio e Osaka o maior jornal do Extremo Oriente.

Fundado em 1878, o «Asahi Shimbun» tornou-se, dentro em pouco, o maior jornal de toda a Asia. Actualmente sua tiragem sobe a 2.500.000 exemplares. Para dizer da sua importancia basta dizer que nos seus diversos departamentos trabalham cerca de 5.500 funccionarios. O grande diario mantem revistas, supplementos semanaes, mensaes e annuaes. E' uma completa organização jornalistica.

Para a sua distribuição rapida em todo o Imperio nipponico, possue o «Asahi Shimbun» 25 aviões proprios.

Gosa de prestigio enorme em todo o Oriente. Suas opiniões possuem valor extraordinario; porquanto mobilizou os maiores nomes do jornalismo japonez, e conta com redactores especializados em todos os assumptos. Seu serviço de informações é o mais completo, contando com uma rêde de correspondentes no mundo inteiro. O seu correspondente em nosso paiz, sr. Hideo Aragaki, é considerado no Japão um jornalista de largos recursos. Ingressou na imprensa em 1926, após curso brilhante na Universidade de Waseda, onde se diplomou em Sciencias Politicas e Economicas. Deixou a direcção do departamento editorial local do «Asahi Shimbun», em Tokio, para assumir as funcções de correspondente no Brasil.

Hideo Aragaki traz a incumbencia de revelar o Extremo Oriente a vida brasileira em todos os seus aspectos, contribuindo assim para a maior approximação nippo-brasileira.

Trabalhando para um jornal de milhões de exemplares, lido por todo o povo e possuindo uma cultura profunda e aguda penetração, o jornalista oriental poderá realizar uma enorme tarefa no sentido da maior comprehensão culturale mais intenso desenvolvimento economico entre os dois paizes.

CONVENIO DOS ESTADOS CAFÉEIROS

RIO, 28 (Pelo telephone) — O convento dos Estados Caféeiros realizou hoje mais uma reunião presidida pelo sr. Jayme Guedes. A sessão iniciou-se ás 14,20 horas, sendo debatida uma série de relativas directrizes da politica economica do café.

Foi designada uma commissão para dar parecer sobre o assumpto. Está marcada nova sessão para amanhã ás 15 horas.

椰子の花

念腹選

荒堀　初穗
曉の雲より淡し　椰子の花
花椰子やロづけをして森の鳥
濱椰子の遠ざかり行く船にあり
椰子の島見えて雨來しデッキかな

花田　良夜
椰子の花　つなぎし馬にこぼれけり
故郷を出れば月美しゝ　椰子の
椰子の花牛舍の棟をおさへけり

長久　國器
軋すぐる六頭馬車や椰子並木
兩岸の椰子に湖江の船ゆるく
此の街の圖書館古く椰子の園

増田　恒河
椰子の實の幹を叩いて落にけり
椰子の花こぼれかゝるや椰子廊
椰子の影伸び來し椰子に憩えけり

佐藤いさを
椰子幹に立かけてあり團扇櫂
水飼ふて馬車行きにけり椰子並木
椰子の影落ちて芝や園の晝

間崎　惠子
降り來て椰子の花にも親めず
椰子の實の打あげられし水際かな

鈴木　抱春
椰子並に水揚風車古び立つ
花椰子の散る菜園を見廻りぬ

増田　拓山
一つづゝ振つて椰子の實買にけり
はたけたる胸に落ちくる椰子

日和
花こ
り
日曜の
花椰子や
丘の家皆
椰子の實の落ち
ところ

万城目金
青空の雲を支て島の椰子

林　銀河
猿飼ふて區裁判所や椰子の中

但馬倭文子
椰子の宿　誘ひに來しはニグロの子

今出　富代
道草をしてゐる生徒椰子の花

岩上　五重
花椰子にバッタリの音暮れにけり

富岡　靜司
コ、椰子の房つりてあり生藥屋

佐藤　潔子
つけたして椰子に間近き廂かな

マラリヤ

村田　米曹
マラリヤの巡回施療貨車の中
おこり病む家の戸口に馬遊ぶ
荷拵ふ土間に臥し居りおこりの兒

石川　芳園
マラリヤの博士といけれ流ざる
おこりさめ夕鍬肩に出て行きぬ

入植
り

宮地　一甫
マラリヤのおのゝく布團押へけり

中野　陽水
豹よりもマレタをおそれ測量す

佐藤　潔子
マラリヤを獸醫の夜釣り渡世かな

目黒　はるえ
マラリヤに高く張られしベット蚊帳

間崎　惠子
療法の醫書もひもときわらわやみ

鈴木　抱春
マラリヤと呼ばれもぞして住み古りぬ

念　腹
くろんぼと猶の交りおこり病む

霧
秋季雜　同
一人十句まで
以上締切四月十日

「短―――歌」

夜の歌

アマリヤ　鴨川　青夢

水栓のゆるみに洩るゝ水の音が音樂の如く時に聞え來

灯をつければ鋭く鳴きゐし螽斯は位置を變へつゝ聲ひそめ鳴く

病める子の熱き額に頰ふれて悲しきことを思ひて居たり

幾度も電球に打あたりて落つる時蜻蛉は光りぬ螺狀となりて

夫と子

バストス　葛西　妙子

汝が好む夫をしもたば恐らくは狂兒を産まむと囁く夫よ

み歌よみて敬ひて居し君の現身は餘りに若くておはしぬ

君がつま君吾が亡母と同じ年齢同じ病にて逝かれしと聽く

雜詠（小田切劍氏）

オリンピヤ　中井はじの

晝日の灼けつく道に埃たてて數百の牛長く續けり

人の如足音たてゝ厨房に入り來る雞あり靜眞晝間を

腰痛に折々拳くはへつゝ忙しく今日を棉摘み終へぬ

◆

◈ クラビーニョス　瀧　讓二

廣らなる此の邸宅の何處にか鼠のをりてしきり音たつ

白タイルに裝はれたる厠にて吾が引く水の音に驚く

自動式水上げモータ活動し初めこの邸宅は朝けとなりぬ

◈ オランダベルデ　尾山　惠昕

朝露のしげき野路を吾が行けば棉の花の香ほのかに流る

傾ける陸穗の上に蝶々のはね白々と飜りをり

以下二十三日分餘

◈ ヴエラアルース　大原　太一

秋深み棉やうやくに咲き初めて日々日雇の尋ね來るかも

◈ ドアルチーナ　武藤　竹夫

仰ぎ見れば啄木鳥止れる枯枝に未だ赫々と夕日殘れり

◈ ジユレーマ　横山　不忘

夕立の雲を寫して靜まれる小池の蓮花をひらきぬ

◈ ポンペイア　山本　操

背戸近き小川に蔓の這ひ出でし多福南瓜は花咲きにけり

◈ リオデペフン　南　春樹

逝きし人の遺品となれる寫眞をかざりて祈り捧げ參らす

◈ オリンピヤ　沼島　志郎

毒草の生ひ繁りたる棉畑に降りし小鳩を我がたづねをり

◈ バストス　蝸　牛

一軒の壺を乞ひつゝ店頭にて人の遊めシガノ說きをり

◆

▲殘念ながら今回も紙面が無いので、殆ど掲載不可能の有樣、以上五氏の分と前回の余り分丈に止め、以下は次回に讓る、惡しからず

▲鴨川氏―今回の出來榮え良好、深く沈潛した作者の息吹きが感得された

▲瀧氏今回不出來、旅の即興無理もないが、頗動常より低く少し（妄言多謝　武本生）